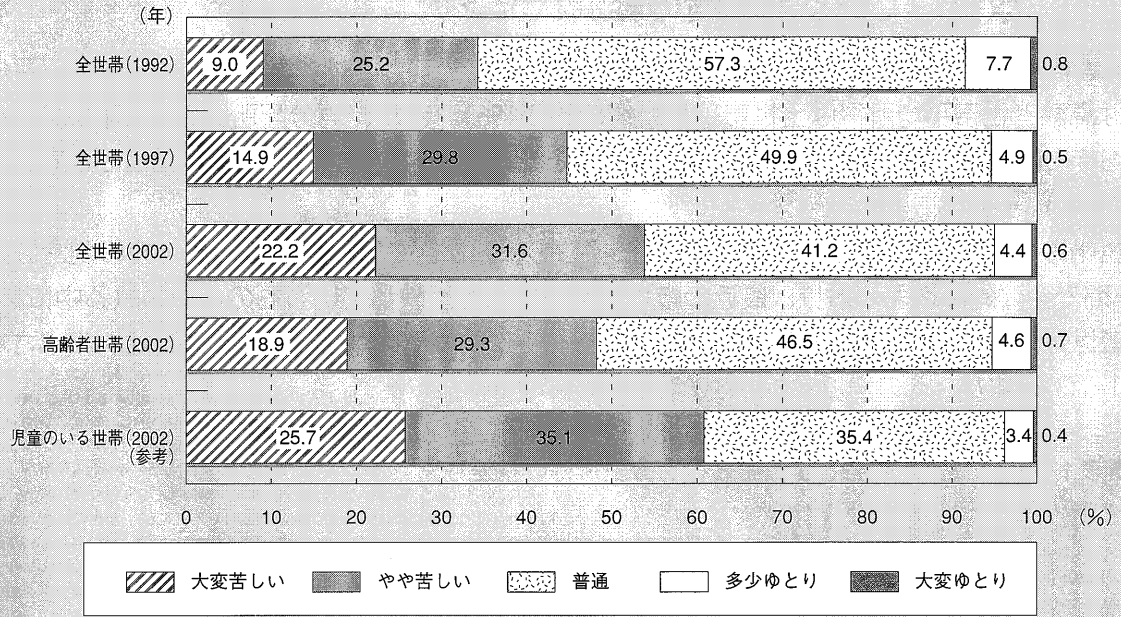


図表1-1-13 生活意識の変化の比較（全世帯と高齢者世帯）



資料：厚生労働省大臣官房統計情報部「国民生活基礎調査」

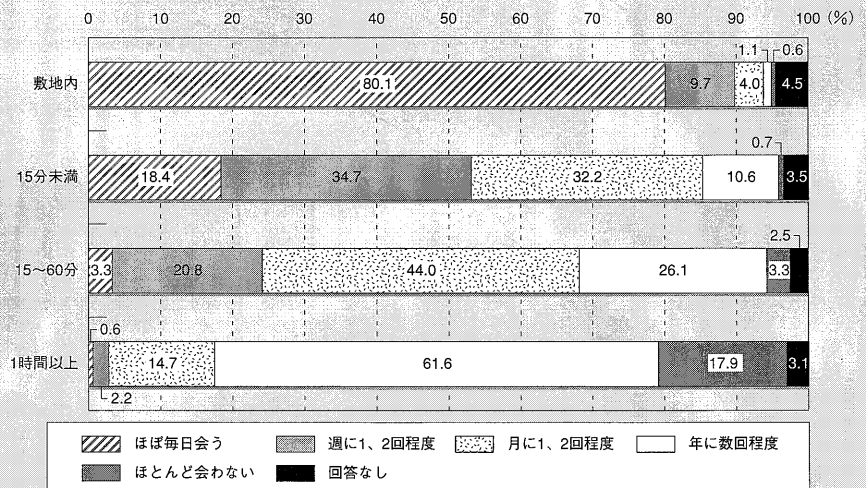
<健康に対する意識が高い高齢者>

○ 日本人の平均寿命は今や世界最高水準にまで達しており、本格的な人生80年時代が始まっている。「健康寿命」の期間でも、60歳以降に健康で過ごせる期間が男性17.1年、女性20.7年と、我が国は世界保健機関（WHO）加盟国中第1位である。また、例えば、高齢者の健康診断等の受診率は1995（平成7）年以降徐々に増加しており、高齢者が自らの健康についてより真剣に考えるようになってきている状況がうかがわれる。

<家族とのかかわりが少ないひとり暮らしの高齢者>

○ 親子が顔を合わせる頻度はそれぞれの住居の距離と強い相関関係がみられ、例えば、「年に数回程度」しか会わない親子の割合は、住居の距離が15分未満の場合には1割程度であるのに対し、15～60分程度の距離になると約4分の1にまで増えている（図表1-1-21）。また、家事や病気の時の看病・世話などの直接的な援助を必要とするものについては、同居の場合には手助けがなされている割合が大きいが、住居の距離が離れるとその割合が急激に減るなどの状況がみられる。

図表1-1-21 親子の住居の距離と交流頻度



資料：厚生労働省政策統括官付政策評価官室「家族と地域の支え合いに関する調査」（2001年）から同室作成